

クルー

イエスツアーの舞台裏でたゆまぬ努力をしている顔ぶれの一部を紹介

当初から、イエスは才能豊かで革新的なアーティストを惹きつけてきた。

クリア兄弟から始まりミッキー・テイト、ロック史上最も勤労で献身的なツアークルーまで、イエスは最高のサポートを受けてきた。

『危機』2022年アルバムシリーズツアーでも、アンディ・クラークによる力作の映像に始まり、その伝統を引き継いでいる。アンディの優れた映像技術が、ダイナミックなオリジナルのイメージ、テクスチャー、色彩、ビデオを使って、イエスのビジュアルモチーフを包み、増幅させる。

アンディはこれまで以上の働きをし、マルチメディアを駆使した無数の高解像度映像を生み出した。

それをブライアン・シュランフが音楽に合わせてリアルタイムで「演奏」し、

負けず劣らず卓越したステージ照明演出に合わせて巧みに躍らせている。

さらにブライアンは、前演出マネージャー兼照明デザイナーのドン・ウィークスがぶち上げた最高水準のレベルを継承し続けている。ビジュアルチームは、まさにコンサート映像と照明演出において新たな基準を確立したといえる。

もちろん音楽あつての夜なので、完璧なサウンドでなければ話にならない。

屋内、屋外、屋根付き、屋根なしなど、さまざまなサイズ、形状、構成の会場において、場所を問わずサウンドが鮮明でクリアで一貫していることに驚かされる。すべての音が光っている。

これは、夜毎に違わず不可能と思われるほど高い忠実性で音を再現する、

フロント・オブ・ハウス・エンジニア兼プロダクション・マネージャーのディーン・マトソンと

モニター・エンジニアのシモーネ・アンジェリーニの努力と経験、才能によるものだ。

弾いたままのサウンドが、この伝説的な音楽と完璧に調和している。

ライブパフォーマンスの重圧に晒されながらも、ステージ上のミュージシャンのチューニングが完璧で、配線が巡らされ、魔法を奏するための設備が整っていることを確認するのは、バンドのこの上なく貴重なテックたちだ。

ジョン・ウォルシュ（ドラム）、アンドレ・ Cholmondrey のおかげで参加したサイモン・ソーン（ギター）、

そしてスティーヴ・リスピン（キーボードとバス）は、凄まじく献身的に、また細部へのこだわりを持ってメンバーをサポートし、それぞれが最高のサウンドを奏でられるようにしている。

英国ツアー公演では、ベリック・ウィケンスがツアー全体を通じて驚異的なサポートをするのに加え、

ウェンディ・ダリーが遺していった、バンドが行うショー前後のファンアクティビティに対するたゆまぬ熱意、思いやり、プロ意識を受け継ぐ。

Manheadの提供する見事なイエスバンドグッズへのファンの尽きない欲求を満たすのは、

パトリック・マホーニー、トラビス・マクギー、アンダーソン・"フェズ"・アルティエリ、クリス・コーネル、ニック・スミスだ。

グッズはライブ会場と公式オンラインショップで販売している。

完璧なまでのプロ意識、優れたユーモア、忍耐力、強さを兼ね揃えたツアーマネージャーの

ジョー・コモーがそのすべてをまとめ上げ、ツアー全体を円滑に回している。

長年イエスでそのポジションを順調に務めてきたウエイド・エリスに代わりベリック・ウィケンスがその補佐につく。

そしてそのすべてをコーディネートしているのが、敏腕マネージャーのマーティン・ダーヴィルと

QEDG Managementの優秀なスタッフたちだ。

彼らがバンド、クルー、サポートチームに気を配り、イエス・ストーリーの裏方として、

世界中のファンを喜ばせるためにすべてを実現させている、まさに名もなきヒーローたちなのだ。